

1. 概 観

(1) 気 候

(イ) 国土の大部分は熱帯モンスーン気候に属し、雨期（6月～10月）と乾期（11月～5月）に大きく分かれ、3～5月ごろは特に暑季とも呼ばれ一年中で最も暑い。

(ロ) バンコクの温度は、最低19.8度、最高39.7度、年平均29.3度。ただし、暑季においては、バンコク市街中心部では日中40度を越える日もある。また年間降水量は2,023.7ミリであった。（2010年気象庁発表）

(2) 面 積

51.4万平方キロ（日本の約1.4倍）

(3) 人 口（2010年末現在 タイ ICT 省統計局発表）

約6,387万人

このうち、首都	バンコク都	約570万人
その他主要県	ナコンラーチャシマー県	約258万人
	チェンマイ県	約164万人
	ソンクラーク県	約135万人
	コンケン県	約176万人
	カンチャナブリー県	約84万人
	プーケット県	約34万人

※統計にぶれが大きく、2010年の人口センサス公表時に大きく修正の可能性あり。

(4) 民 族

タイ国民の大多数がタイ族。タイ族以外で最も多い華僑（華人、華裔、泰華とも呼ぶ）のタイ化の度合いも進んでおり、深刻な民族問題は生じていない。なお、マレー系民族は南部の4県に住み、ほとんどがイスラム教徒である。

(5) 宗 教

憲法は信仰の自由を規定しているが、タイ国民のほとんどが仏教徒であり、仏教は国教の観がある。タイの仏教は、スリランカ系の上座部仏教（小乗仏教）であり、それは自らの修業努力によってのみ自己の救済が完成されるという出家者、僧院中心の宗教である。なお、タイ全国の仏教寺院数は約3万5千強、僧侶は約25万8千人（2007年文化省宗教局統計）。仏教 約85%、回教 約10%（2007年文化相宗教局統計）。

(6) 言語

タイ語は、単音節を語幹として、五種類の声調を有する。外来語の影響により複音節語も少なくない。文字は13世紀末にクメール文字に範をとって作られ、現在のタイ文字は42の子音文字と30の母音文字からなり、これを組み合わせ、音節を作り、左から右へ横書きする。語彙は3分の2近くが、サンスクリット・パーリ語、中国語、カンボジア語などの外来語である。なお、敬讓表現が発達している。

(7) 教育

6・3・3・4制（義務教育は小学校6年間及び中学校3年間。）

(8) 主要経済指標

(イ) GDP

10.1兆バーツ（2010年）（日本の約19分の1）

(ロ) 一人当りGDP

135,144バーツ（2009年）（日本の約9分の1）

(ハ) 実質経済成長率

2010年	2009年	2008年	2007年
7.8%	▲2.3%	2.5%	5.0%

(ニ) 消費者物価上昇率

2010年	2009年	2008年	2007年
3.3%	▲0.9%	5.5%	2.3%

(ホ) 失業率

2009年	2008年	2007年	2006年
1.5%	1.4%	1.4%	1.5%

(ヘ) 最低賃金

215バーツ/日（バンコク、2011年1月改定）

(ト) 総輸出額

1,937億ドル（2010年）

主要輸出品 ①コンピュータ・部品、②自動車・部品、③集積回路、④天然ゴム

主要相手国 ①中国、②日本、③米国、④香港、⑤シンガポール

(チ) 総輸入額

1,796億ドル（2010年）

主要輸入品：①原油、②機械・部品、③化学製品、④鉄/鉄鋼・同製品

主要相手国：①日本、②中国、③マレーシア、④米国、⑤UAE

(リ) 通貨

バーツ（BAHT）

1米ドル＝31.73バーツ（2010年年間平均値）

1バーツ＝2.724円（2010年年間平均値）